

## 日本のNGOに向けて

親愛なる日本のNGO団体の皆様、今回の「ありがとう JAPAN」キャンペーンにあたり、一言ご挨拶申し上げます。言うまでもなく、ここ10数年間で日本のNGOとUNHCRとの連携は、質、量ともに目を見張る拡大を遂げてきました。既に10を超える日本のNGOが、国内のみならずスーダン、ミャンマーを始めとする世界の難民支援の現場で、UNHCRと共同で事業を遂行しています。このようなNGOの目覚ましい活躍は、国際人道支援分野に寄与する日本の取り組みを、一層充実させるのに中心的な役割を担うものです。日本における人道支援の専門家の皆様の、日夜にわたる真剣で絶え間ないご尽力、果敢な挑戦に心から敬意を表します。また人道分野における日本の役割への期待が高まる中で、日本発NGOの活躍が一層重要になるとも実感しています。UNHCRは今後とも、難民をはじめ、国際的保護を必要としている人々の明日をひらく活動に、日本のNGOの皆様とより緊密に連携し、尽力していく所存です。

バーニー・ドイル

UNHCR本部 インターエージェンシー部 部長

日本からの笑顔の架け橋  
ガールスカウトのピースパック

1994年から開始されたピースパックプロジェクトは、今までに多くの日本のガールスカウト会員ならびに学校関係者や、地域の方々が生かしたためた平和への思いを、文房具や手紙と共にピースパックに詰めこみ届けることで、日本からの笑顔の架け橋としての役割を担ってきた。開始当初は、「難民って



©(社)ガールスカウト日本連盟

誰だろう」、「難民はどこ

にいるのだろう」など、多くの“はてな”で始められたこのプロジェクトだが、活動を進めるなかで、多くの学びや気づきがあった。遠い見知らぬ世界の出来事から、自分たちに関係する出来事としての意識のスイッチが切り替わった人々の中には、国連職員を目指したり、外務省職員として人道問題に関わるようになったガールスカウト会員もいる。休止や再開を経て、2009年に完結するまでに、延べ248,632個のピースパック、103,423足の靴、31,762個のボールが日本各地からのメッセージカードと共に、難民の少女、少年たちへと届けられた。



©(社)ガールスカウト日本連盟

ガールスカウトのピースパックプロジェクト

[www.girlscout.or.jp/peace/peacepack.html](http://www.girlscout.or.jp/peace/peacepack.html)

## メッセージ

## 川井 郁子

ヴァイオリニスト、作曲家。「川井郁子Mother Hand 基金」を設立。また国連UNHCR協会評議員として、難民の子どもたちと交流する活動を続けている。



©国連UNHCR協会

自分の娘が生まれて以来、恵まれない環境にある子供たちのことをとても放っておけない気持ちになりました。音楽を通してエールを送り希望を持ってもらえたら、そして現地の子供たちのことを日本の皆さんにも伝えたいと思います、タイにある難民キャンプとウガンダの難民居住地を訪問しました。今の逆境に負けずに、子供たちにはいつか必ず夢をつかんでほしいと心から祈らずにはいられません。少しでも多くの機会が難民の子供たちに与えられるように、これからも応援して行きたいと思います。

僕とUNHCRとの縁は、遡ることもう10年も前のことになりました。UNHCRの「次の世代に、難民問題とその解決に思いを馳せて欲しい」という願いから、1979年に作った「生まれ来る子供たちのために」という楽曲が、1999年から応援ソングとして使用されることになりました。（この広告は国連UNHCR協会のホームページや街頭スクリーンなどで現在放映されています。）この曲がUNHCRの活動に少しでも役に立っているのならとても嬉しく思います。次の世代のために僕にできることは限られていますが、継続して向き合っていきたいと思っています。

アーティスト。  
楽曲『生まれ来る子供たちのために』はUNHCRの応援ソングでもある。



## J-FUN 日本UNHCR・ NGO評議会



J-FUNの長期的な目標は、日本での難民問題の認知度を向上させ、同時に人道支援に携わる団体の活動環境を整えることにあります。主要な活動は①現場情報とUNHCRをはじめとする参加団体の事業内容の共有（オペレーション）、②現場を持つ人道支援団体の強みを活かした政策提言（アドボカシ

UNHCR駐日事務所とNGOによって構成されるJ-FUNとは、難民保護に取り組む日本の人道支援団体が自由に参加できる開かれたフォーラムです。現時点で約30団体が加盟しており、その大多数が日本をはじめアジア、アフリカや中東などの人道支援の最前線で活躍しています。

一）、そして③共同のイベント・広報活動を実施することにあります。1950年に国連総会で採択されたUNHCR事務所規程には、NGOとの緊密な連携が難民保護とその恒久的解決に不可欠であることが記されており、NGOとの協力はUNHCRのDNAの一部となっています。今後も、世界の難民問題に対する日本発の人道支援を推進していきます。

- J-FUNの加盟団体
- 難民を助ける会
- ADRA Japan
- 緑のサヘル
- アフリカ日本協議会
- AMDA社会開発機構
- ブリッジ エーシア ジャパン
- BHNテレコム支援協議会
- ケア・インターナショナル・ジャパン
- 災害人道医療支援会
- 日本エスプレントマジックktp友好協会
- 国際協力NGOセンター
- 難民支援協会
- ジェン
- 日本イラク医療支援ネットワーク
- ジャパン・プラットフォーム
- 日本赤十字社
- 日本サハラウィ協会
- 日本国際ボランティアセンター
- 無料塾
- 難民ナウ!
- ピースウインズ・ジャパン
- 難民自立支援ネットワーク
- 財団法人アジア福祉教育財団 難民事業本部
- セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
- シャンティ国際ボランティア会
- ワールド・ビジョン・ジャパン
- 国連UNHCR協会
- 国連難民高等弁務官駐日事務所

## FRJ NGO法人 なんみんフォーラム



所属団体は、互いに連携・調整しながら、難民申請や仮放免などに関わる法的アドバイスや、生活、医療、住宅、教育にかかるカウンセリング、広報活動など、多岐にわたる活動を展開し、日本にいる難民をはじめ、その他の人々を支えています。

特定非営利活動法人なんみんフォーラム（FRJ）は、日本に逃れてきた難民、人道的配慮により在留を許可された人々、難民申請者を支援する団体/NGOのネットワーク組織です。会員である個々の団体が連携して調整や支援を行い、助けを必要とする人に適切な支援を効率的に提供することを目指しています。

日本で難民申請する人の数は増えており、さまざまな問題に直面しています。FRJには、①ケースシェアリング、②収容・拘留問題、③アドボカシー、④援助協調、⑤広報/渉外の5つのワーキング・グループがあります。各

- FRJの正会員団体
- アムネスティ・インターナショナル日本
- カリタスジャパン
- 日本カトリック難民移住移動者委員会
- カトリック東京国際センター
- 難民・移住労働者問題キリスト教連絡会（社福）
- 日本国際社会事業団
- 難民支援協会
- 日本福音ルーテル社団
- 全国難民弁護団連絡会議（社福）
- さほうと21
- 国連難民高等弁務官駐日事務所

特定非営利活動法人 なんみんフォーラム  
Forum for Refugees Japan (FRJ)

〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2  
ミズビル3F  
社会福祉法人 さほうと21内  
Tel: 03-3444-8865  
Fax: 03-5759-1063 (CTIC内)

大森邦子

FRJ代表理事/社団福祉法人 日本国際社会事業団常務理事